

100 人を超える公的全国会議を WEB で主催して得た教訓と課題

企画・情報部 高次脳機能障害情報・支援センター／研究所 今橋久美子、深津玲子、菅原克之、岡部通子、亀澤譲、周藤恭子、菅原里美

【はじめに】高次脳機能障害情報・支援センターでは、年に4回、全国会議の企画運営を行っている。これまで集合形式で行ってきたが、今年度は感染症拡大防止のためWEB形式での開催を試みたので、1) 事前準備、2) 当日の実施状況、3) 事後アンケートについて報告する。

【実施内容・結果】

1) 事前準備

1. 都道府県委員に開催要項を通知し、参加登録者のメールアドレスを集める。
2. 発表者から資料（音声入りスライド）を集めて確認し、適宜音量変換する。
3. スライド資料を PDF にしてメールで送付する。（受信できない場合は、高次脳機能障害情報・支援センターのWEBサイトからダウンロードしてもらう。）
4. 本会議および通信テスト期間を設定し、各 URL を登録者に送る。（通信テストは会議1週前の4日間とした。）

2) 当日の実施状況：第1回全国連絡協議会 158名、支援コーディネーター全国会議 161名

1. 開始1時間前から会議室を開く。マイクとビデオは発表者以外 OFF にする。
2. 招待は統合NW、司会進行・挨拶・質疑応答・資料のアップロードは基幹システムを用いる。質疑応答は、チャット機能で挙手・質問してもらう。

3) 事後アンケート：37/47 都道府県（79%）から回収

1. 今後希望する会議形式		2. 使用可能なシステム（複数回答）	
感染症収束後も WEB 形式	49%	Zoom	50%
流行中は WEB、収束後は集合形式	35%	Skype	40%
流行中でも集合形式	10%	Cisco Webex	17%
WEB と集合のハイブリッド	2%	Teams	11%
その他（条件次第）	4%	Google Meet	7%
		V-CUBE	5%

【考察・結語】

1. 感染症収束後も WEB 形式を希望する自治体が半数近くある一方、対面での事例検討や支援者間の交流を望む声があった。
2. 参加者の所属機関のセキュリティポリシーによりシステム利用が制限される場合があるため、事後の捕捉資料提供など情報保障が必要である。
3. 統合NWのWEB会議システムにおいてパワーポイントは動作保証外であるため、概ね20MBを超える場合は、分割する、ムービーにしてWEBサイトから別配信に切り替える、音声は記録せずにライブ配信する、回線をレンタルする、などの手段を考える。